

## 【事業報告】

## 平成 23 年度・24 年度 事業報告

## 〔総括〕

母校は平成 24 年(2012)に「島津レントゲン技術講習所」(昭和 2 年・1927)として開学以来創設 85 周年を迎えた。これを記念して大学は学友会の協力のもと『島津学園 85 年史』を発刊し、学友会は 85 周年記念祝賀会を 260 余名の参加を得て開催した。

在学生(4 年次)の就職活動の動機付けに、平成 24 年は例年より早く就職懇談会を開催し、学友会が卒業生と在学生を結ぶ大きな力となった。

会員相互の親睦・親交を積極的にはかって頂くため、定期的な支部総会の開催を要請すると共に、出席要請のあった支部には会長及び本部役員が出席するよう努めた。

時代の流れで「学友だより」のカラー化を望む声があり、経費的にも可能であったため、「学友だより 200 号」よりカラー化を行った。

会員名簿については広告費収入の減少はあったものの会員の利便性を考え隔年の発行を行った。同時に、ホームページによる情報提供の充実を図った。加えて、母校の更なる発展のため側面から事業支援を行った。これからの学友会活動を支える短大卒業生の活躍を期待するところであるが、本部役員に短大卒業生 2 名を登用した。

## 〔委員会報告〕

## (1) 庶務委員会

通常の業務として理事会(年 4 回)および各委員会、打合せ会議等の開催案内および会議運営を行った。学友だより(年 4 刊)の発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図った。会員情報管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行った。また、支部総会および同窓会開催時には、会員宛名シールの提供および案内状発送等の支援を行った。

## (2) 編集委員会

「学友だより」を下記の通り年 4 回発行し、会員との情報の連携に努めた。特に平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災については、被災地域の学友会員からの安否連絡を掲載するなど、学友会員相互の繋がりに貢献できた。学友だよりの内容については、予定していた必要事項は全て掲載し、加えて随時送られてくる事項についても、時宜を逃さず掲載できた。

通巻 200 号から、カラー印刷(A4 版)で刊行した。

現在、通巻 207 号(平成 25 年 4 月 10 日発行予定)の発行準備を行っている。

通巻 199 号	2011 年(H23-No1)	平成 23 年 4 月 10 日発行	8 頁
通巻 200 号	2011 年(H23-No2)	平成 23 年 7 月 10 日発行	16 頁
通巻 201 号	2011 年(H23-No3)	平成 23 年 10 月 10 日発行	10 頁
通巻 202 号	2012 年(H23-No4)	平成 24 年 1 月 10 日発行	12 頁
通巻 203 号	2012 年(H24-No1)	平成 24 年 4 月 10 日発行	6 頁
通巻 204 号	2012 年(H24-No2)	平成 24 年 7 月 10 日発行	8 頁
通巻 205 号	2012 年(H24-No3)	平成 24 年 9 月 25 日発行	10 頁
通巻 206 号	2013 年(H24-No4)	平成 25 年 1 月 10 日発行	16 頁

\*総頁数 86 頁

## (3) 企画委員会

## ① 就職懇談会の開催

平成 23 年 8 月 27 日(土)、平成 24 年 7 月 14 日(土)の両日、午後 1 時 30 分から本校講義室において、4 年生を対象に就職懇談会を実施した。従来は臨床実習の前の夏休み終盤に開催していたが、就職に対する意識を高める必要性から学校側の要請により、平成 24 年度からは夏休み前の開催となった。

『平成 23 年度』講師として短大卒業生を中心に 5 名の方をお願いした。企業に席を置く短大卒業生の参加も得て、医療現場だけには留まらない業務の紹介をした。前年までは質疑応答の時間を設けていたが、ほとんど質問が出なかったため今回は、卒業生が後輩に残した『贈る言葉』を基にした Q&A 形式のプレゼンテーションとした。『平成 24 年度』は昨年度の時間が延長したことを顧みて、講師を 4 名の方をお願いした。学友会会長などの先輩方もオブザーバーとして多数参加いただき、様々な立場で卒業生に対して助言を行っ

た。

両日ともに懇談会終了後、在学生との懇親の場を持った。

就職活動に関しては学校と学友会との連携を緊密にし、今後ともサポート体制を強化する必要がある。

#### ②学園祭における学友会相談コーナー等の開設

平成 23 年 10 月 23 日(土)、平成 24 年 10 月 27 日(土)に開催された学園祭(大おお溜る璃り祭)に例年通り「学友会何でも相談コーナー」を設け、在学生の各種の相談に応じると同時に、在学生と卒業生との親睦を図った。相談の主な内容は就職問題であり、学生年次に関係なく、関心の多くを占めていた。また、就業後の業務に対する取り組み方や心構えについてといった意欲的な相談も多くあった。在学生の相談件数が年々減少する傾向にあり、委員会として新たな企画を考えなければならないことが反省点として上げられた。

両日とも、大学のオープンキャンパスも開催され、見学に訪れた入学希望者(高校生、保護者)の相談を受け付けた。学校側から事前にプログラムを入手し、相談者が集中しそうな時間帯に回答者を集中し、限られた人員で運営できた。保護者からの相談では、資格取得に対する関心や期待が強く感じられ、本校の優位性などをアピールした。また、本学の特徴である『学友会』組織について資料を作成し展示した。

#### (4)名簿委員会

『2012 年度版学友会会員名簿』を発行した。発行部数は 550 冊、会員名簿の発行に係る費用は、広告収入(32 社)1,370,000 円、有償頒布(2,000 円)による収入は 656,000 円(328 冊)であった。その他の委員会活動は、学友だより発送に必要な住所変更を随時行い、新卒業生の住所データの登録等を行った。

#### (5)表彰委員会

##### ①表彰対象者の選考

「表彰規定」および「名誉会員並びに表彰候補推薦内規」に則り、各支部からの推薦者(今年度なし)を含めた表彰対象者の選考をした。

##### ②2013 年度学友会総会表彰者等

『学友会功労賞』長年会長および理事を務められた埜藤真純氏(大阪支部、43 回生)に功労賞を贈呈することを決定し、理事会に推薦した。また、感謝状贈呈者として、森本美穂氏、野原弘基氏、村上晃司氏、堀井均氏、向井富士夫氏の 5 氏を理事会に推薦した。なお、『名誉会員』、『学友会荣誉賞』、『学友会奨励賞』については、該当者がなかった。

#### (6)財務委員会

##### 【一般会計】

平成 23～24 年度より年度会費を廃止し、会費については準会費、終身会費とした。

収入は予算に対してほぼ 100%を超える収入となり 10,526,400 円となった。

支出は大科目では予算以内で 8,875,714 円であった。次年度の繰越金は 1,650,686 円となった。

##### 【終身会費】

会費収入は新入生 185 名(2 年間)で 5,550,000 円であった。また、積立金による利息等は 1,005,340 円であった。支出は一般会計への補助金を 5,200,000 円とした。この結果、平成 23 年度当初より 1,355,340 円積立額が増加した。

##### 【21 世紀創生基金】

平成 23 年度当初より 2 件の寄附があり、総額 150,000 円であった。支出は、東日本大震災による逝去会員に対する弔慰金(8 万円)、東日本大震災救援金(100 万円/領収書)の支出があり、残高 6,311,005 円となった。近年、寄附による収入が激減しており、今後寄附の増加を期待したい。

以上